

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホームあたご		
所在地	長崎県佐世保市相浦町138-2		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年 11月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の半数近くが90歳代と平均年齢も高くなっていますが、生活の中で楽しみを見つけていただけるよう職員と一緒にできる様々な活動を取り入れています。誕生会をはじめ、月の行事、季節の花の見学や外出支援など利用者の無理なく参加していただけるよう催しものを行っています。あたご畑では季節の野菜を育てる楽しみや収穫してお好みの食べ物をお聞きし、献立に取り入れたいおやつとして提供しています。ご家族をはじめ運営推進会議にて利用者の施設内での様子や活動などを地域の方にも知っていただくようにお伝えをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はコロナ禍を経て第5類になり、感染対策を図りながらも積極的な活動に転じている。面会は家族に限らず受け入れ、地域の祭りの参加やイベントへの作品出店など地域と交流を深めている。また、季節毎の花見や外食、散歩や買い物、馴染みの場所へのドライブ等入居者の希望に沿った気軽な外出支援は特筆すべきである。24時間医療体制や家族へ寄り添う姿勢は信頼を強めている。施設長と主任は、自然体で職員と接しており、チームワークと働きやすい職場環境を構築している。入居者を一人ぼっちにさせないと、毎日ソファで1対1となれる場を作り、家事、菜園での収穫やおやつ作りの他、日向ぼっこや懐メロを歌う等笑顔を引き出し生活意欲の向上に努めている。理念の具現化に向け、業務優先ではなく穏やかに接するよう気を付け、入居者に向ける目は暖かく本人が真ん中にある暮らしが見える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念のもと利用者ひとりひとりが笑顔で楽しく暮らせるよう日々努力しているが、業務に追われてゆっくりとは生活の支援ができてない部分もある。	理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」に沿い、入居者とゆっくりとソファなどで1対1となれる場を作り、全員と関わるよう気掛けている。職員はコロナ感染対策の業務が入り、通常通り支援に臨めない場面も出てきているが、理念の具現化に向け、業務優先ではなく穏やかに接するよう注力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物など間接的ではあるが参加、交流が来ている。 (おくんち見学、美容室の利用など)	事業所は地域の祭りや催しで賑わう主要道路沿いに立地しており、事業所前に入居者も並び、おくんち見学を楽しんでいる。また、地域の作品展出展やフラダンスの慰問、中学生の職場体験受け入れなど、地域交流も再開している。近隣の美容院やとなり組の自治会長など密に関わり、採れたての野菜も届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事やさまざまな訓練を通して認知症高齢者への理解や現状を伝え、支援のあり方を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの要望や町内会の方の意見など伺いカンファレンスで話し合い、スタッフと共に支援へつなげるようにしている。	コロナ禍で書面会議を継続し、今年5月から対面会議を開催していることから、年6回、条件を満たした構成メンバーの出席により開催していることが確認できる。運営推進委員には家族の参加者も多く、地域行事の情報を得たり、運営面の話題で意見を交わしたりするなど、さまざまな意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の経済状況や支援に関する相談等をこまめに行っている。	市担当課の職員による定期的な訪問や、行政から案内がある研修を職員が受講している他、行政主催の高齢者虐待防止検討会に参加するなど連携を取っている。事故報告書は統一様式にて報告対象に従い、メール報告している。日頃から不明な点は問い合わせ、介護保険申請手続き等でも出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束は行わない事としており、見守りについては家族と話し合いをし、必要な対応を行っている。夜間のみ玄関は施錠している。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議を活用しており、毎月のセンサー継続使用における詳細な検討内容も報告している。また、身体拘束防止委員会を2ヶ月に1回全職員で開催し、3ヶ月に1回の研修により、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。言葉の拘束では、気づいた時に施設長や主任が指導・助言を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見守りセンサーの活用など、常に必要性を検討し、定期的に研修会を開くなど、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修を行い、各自が制度のしくみや利用についての学習を行い家族からの制度利用について、主治医とも連携し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、ご家族の不安因子に対し、支援の内容等を十分に説明し、理解していただくようにしている。入所後の著しい変化に対しては、その都度確認や説明を行う事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会が可能になり、ご本人の状態を説明したり、実際に会って確認していただくことで、不安なことや意見要望等を確認するようにしている。	苦情相談窓口は明文化し、契約時に説明している。要望は面会時や電話などで出されることが多く、職員で共有、検討し、家族に回答している。毎月、写真を添えた便りで入居者の近況を伝えるとともに、不安を抱える家族には毎日電話して思いに寄り添っている。運営推進会議への参加も多く、信頼関係ができていくことがわかる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス等において、支援業務、休暇等について意見を聴く機会を持っている。	職員は、毎月の職員カンファレンスやフロア会議、日常業務の中で意見要望を出している。イベントの立案や当日の外出など職員の積極的な提案がある。施設長は職員アンケートを実施し、希望者や気になる職員の面談を持ち、意見や要望、思いを抽出している。業務やシフト見直しなど職員意見の反映事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務について不安や体調などを把握され、向上心をもって働けるよう努力されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体カンファレンスでは施設内研修を行い、資格取得などの希望をきいてスキルアップに関して相談できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催などの勉強会に参加し、カンファレンスで報告することでサービスの質を向上するように心がけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は要望に対し、状況を説明できない事もあり、家族からの聞き取りが主となる。入居後に不安がないようできるかぎり、本人の気持ちをききれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望は多く聞かれる事もあるが、入居後の生活につながる不安なことなどを特に注意し、説明や話し合いを持って安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安なことや困っていること、必要なことにも優先順位があり、一番に必要な支援を始められるように努力しているが他の事業所サービスの利用はない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること、続けたいことを継続することで、自身の活動等が必要である事、日常生活の役割を感じて過ごしていただけるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後は疎遠にならないように、定期的な面会や本人に対してのご家族の必要性を伝えながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り関係継続をしたいと思っているが難しいことが多く、十分とは言えない。日常の会話の中で馴染みの人の話や昔住んでいた場所の話をするようにしている。	家族や親戚、友人知人、自宅近所の住人の他、教区の信徒がカトリック新聞を届けに面会に訪れている。法事や墓参り、馴染みの美容院には家族の協力を得て、出掛けている。自宅近辺のドライブや盆、正月の自宅外泊など、職員は入居者の生活歴を把握し、馴染みの関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活のリズムに合わせての活動が主となっていることが多いができる限り、作業やレクなどを通して楽しみながら、交流できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談受け付け、対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行具合やADLによって希望する生活は大きく違いますが本人の会話から希望をくみとったり、可能な限り希望に添うように努めているが十分とは言えない。	職員は、1日の中で全ての入居者との対話を多く持ち、思いや意向の抽出に努めている。状況に応じては居室などの話しやすい環境でゆっくりと聞き取っている。起床や就寝時間は本人に合わせ、日中の過ごし方も自由である。会話で聞き取った情報や思いは都度、生活歴情報シートに記載し職員で共有、ケアプランへ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からの聞き取り、または地域の方、利用していたサービス事業所等から情報を取り、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して、身体状況、精神状態など観察し、職員全員で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子(気づき、注意点)を常に話し合い、必要に応じてはご家族や医療機関とも話し合っており、ケアプランを作成している。	新規入居者は1ヶ月から1ヶ月半、3ヶ月と状態により計画し、その後短期6ヶ月、長期12ヶ月のケアプランを作成している。担当制にて3ヶ月に1回モニタリングを実施し、面会時や電話にて家族の要望を聞き見直している。毎月の「見守りセンサー検討会議」を計画に反映している他、職員の記録から短期計画と介護記録の連動も確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等にて全職員で情報を共有し、ケアの見直し等の意見を出したり、指示することもあるが確実に行ってもらっていない現状もあり、職員の実践への必要性を認識できていないときがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスが主となり、他サービスの活用は行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動への参加はすべての入居者というわけにはいかないが、参加できる範囲で楽しめることを提供しています。中学生の職場体験やフラダンス慰問など楽しんでもらうようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の変更や継続できる旨の選択を行い、納得していただいた上で医療情報を共有し、切れ目なく、適切な医療提供が出来るようにしている。	基本的にはかかりつけ医を継続して受診できる体制にある。協力医が月2回往診し24時間医療連携体制を取っている。また協力病院の看護師が月2回訪問し健康状態を確認している。他科受診の際は、家族同行により通院し、結果内容を記録し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないがいつでも対応してもらえるようになっている。利用者の状態把握や緊急時の受診など支援できている。月2回かかりつけ医から看護師が健康観察に来られ血圧や体調の聞き取りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリーの供提。退院前の状態把握や退院指導カンファレンスなどの参加看護要約の発行などにより、情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時だけではなく、年齢や持病な添った終末期ケアのあり方、家族の要望など早めに聞き取りを行うようにしているが、ご家族間の話し合いが十分ではない時もあり、難しいと感じる。	重度化・看取りの指針を、利用開始時に家族へ説明し同意を得ている。早い段階から本人の状態に合わせ、医師を交えて家族に意向の再聴取や説明を行っている。ただし、看取り支援体制にはあるものの、これまでに事例はなく、看取り研修の実施には至っていない。	看取り事例が無い中で支援体制を構築していくためにも、職員間で不安な点を共有しながら、看取りについて研修することで、職員の理解を深めていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、初動についての確認を行ったりフローチャートを提示して、いつも確認できるようにしている。事故対応訓練は多く行っていく必要があるとおもう。疑問がある場合にはいつでも話し合いが出来るように環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な、水害、火災の訓練をおこなっているが地域参加型の訓練は行っておらず訓練協力の点からも必要と思われる。	年1回消防署立会いの訓練を実施している他、年3回は昼・夜間想定で訓練を行っている。今年度6月には水害時想定で垂直避難訓練を実施している。火災訓練時は周辺の住民へ避難誘導の呼びかけや隣組を通報装置に登録するなど地域連携を図っている。ただし、自然災害の避難訓練の回数や具体的な避難対策においては課題が残る。	事業所の立地条件を基に、自然災害訓練の回数を増やし、夜勤者を中心に具体的な対策を検討するなど自主訓練による全職員への周知徹底に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人権を尊重しプライバシーを守りプライドを傷つけないように言葉かけを注意している。	入浴介助時や排泄介助はさりげなく、羞恥心に配慮した支援を心がけている。呼び掛けは苗字にさん付けを基本とするなど、人格やプライバシーを傷つけない支援に努めている。更に、個人情報の取り扱いは、写真掲載を含め同意の署名を得、また、職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりをよく観察し会話をする事で本人の思いや希望を表しやすい環境作りに努力している。選択出来る事はやっていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り対話を持ちたいと思うが余裕のない時もある。利用者のペースに合った支援をするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや色や服装などは把握し希望に添うように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けができる方はほとんどなくできる方には料理の下ごしらえ等、見守りのもと行っている。好きな食べ物やメニューを聞いて献立に加えるなど工夫をしている。	献立は入居者の希望を反映して職員が立て、専任職員が嚥下に合わせて刻み食も提供している。嫌いな物は代替食を用意している。菜園の野菜も使い調理し、各入居者は下ごしらえなど出来ることを手伝っている。レストラン貸し切りの敬老会、イベントの食事会、一緒に作るおやつや巻きずしなど取組は多く、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足や脱水症状を防ぐため、捕食な提供や必要な水分量など医師の相談を含め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や舌苔な除去など自力でできない部分の介助等を行っている。又、その方にあった歯ブラシ等を使いケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を心がけ職員2人での介助等も行っている。排便パターン化している人もいれば予測できない方いるため職員間の情報共有が必要。病気や体調なども考慮して行っている。	職員は排泄チェック表を付け、排泄リズムを共有し声掛け誘導を行っている。居室はトイレ付きで居室での座位排泄を基本とし、状態によっては2人介助で支援を行っている。毎月のカンファレンスで、各入居者の排泄状況を基に、より適切な支援を検討するなど自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬だけではなく運動や飲水量にも注意する。お茶を排便効果のあるものに変えるなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の決まってはいるが汚染時や散髪後など適宜入浴できる。週に3回の入浴にて清潔を保てるようにしている。	週3回を基本としているが、体調や気分に応じて時間や日を変え入浴を確保している。好みのシャンプーなど希望に対応し、季節には菖蒲湯を用意している。事業所は入居者も職員も全員女性である。現在、骨折の1人を除き、全員が浴槽を使用し、入浴剤入りの湯に浸り、職員との会話や歌を歌うなど、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にも、午睡や本人が臥床を希望させるときはその都度対応しているが、時折夜間の睡眠に影響がある時があるので臥床時間に注意している又、室温や布団調整などもこまめに行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬に加え頓服や外用薬などの取り扱い時には注意を払い症状や状態を観察しながら介助している。職員間の情報共有もこまかくおこなうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に生活の中で畑での野菜収穫などの役割を感じてもらうようにアイデアを出したり、気分転換の外出を行うなどの支援しようとするが見いだせない時も多く検討必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態から職員との外出のみとなる方が多いができる限り気分転換を兼ねて外出支援を行っている。ご家族の協力のもとでの外出も時々ある。	外出支援をストレス軽減と気分転換と位置づけ、積極的に取り組んでいる。桜や菖蒲等の四季の花見や地域の祭り、初詣の他、菜園の野菜の収穫や日光浴、散歩など車椅子の入居者も気軽に出掛けている。入居者の衣類やおやつを買いに職員同行で出掛けることもあり、入居者の希望に寄り添って外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される事があればご家族と話し合い納得して使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話を補助することで電話対応が可能な方もおられる。かけることは難しいが受ける事の支援はできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室やフロア内を毎日掃除をし清潔を保つように心がけている。季節事に展示物を貼ったり、ご自分で塗ってもらった塗り絵などを貼ったりしている。	採光の良いリビングでは入居者がテーブルに集い、地域の作品展にも出展する塗り絵など、職員とともに楽しんでいる。手作りの壁飾りは季節を感じることもできる。各居室や菜園での野菜の収穫など、入居者が自由に過ごしている様子がある。臭気も無く職員は清潔な環境整備に徹している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでともに過ごしたり同じテーブルで作業をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ち込むことができ居室でゆっくりTVをみることができるため自分の時間を確保する事ができる。逆に怪我防止のため、多少職員による家具の位置の変更を行うこともある。(家族、本人の同意のもと)	各居室はトイレと洗面台を備えている。持ち込みは自由で家族の写真や仏壇、マリア像などを配置している。入居者本人作の塗り絵を壁一面に飾っている他、入居時に職員が居室入口の暖簾を手作りするなど居心地よく過ごせるような工夫も窺える。職員は換気や温度調節、清掃を行い、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前プレートやのれんを作り、ご自分の部屋がわかるようにしている。又、自力歩行ができるように廊下の手すりや浴室、トイレ等手すりなど安全な移動ができるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホームあたご		
所在地	長崎県佐世保市相浦町138-2		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の半数近くが90歳代と平均年齢も高くなっていますが、生活の中で楽しみを見つけていただけるよう職員と一緒にできる様々な活動を取り入れています。誕生会をはじめ、月の行事、季節の花の見学や外出支援など利用者の無理なく参加していただけるよう催しものを行っています。あたご畑では季節の野菜を育てる楽しみや収穫してお好みの食べ物をお聞きし、献立に取り入れたいおやつとして提供しています。ご家族をはじめ運営推進会議にて利用者の施設内での様子や活動などを地域の方にも知っていただくようお伝えをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の入口に事務所の理念がかかげてあり、職員一人一人が共有しながら実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験を受け入れたり地域のイベント等に参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ期間中は地域の行事等の開催もなく参加できなかったが少しずつ開催されるようになり、地域の作品展に出品したり認知症の方々の活動を伝えている。今後も参加し努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ期間中は書面でのやり取りだったが今は施設内で行われ、出た意見等はカンファレンス等で聞き、サービスに取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたとき実績、実情を報告し、意見をいただいている。研修等が開催されている時はできる限り参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為、施錠している。身体拘束は施設内研修で受けており、カンファレンス等、職員間で拘束しないケアへの理解を深め実践するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修に参加し、知識を深めること、自分の言葉、行動などを振り返ることで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者のご家族の方で制度を活用されてる方もいらっしゃるため。成年後見制度等の研修を行い制度について学び、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書類等を使用し説明を行っている。また、改定時等があった場合にもお手紙として家族に知らせている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望などを尋ねたりして、出た意見はカンファレンス等で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のカンファレンスの場で意見を述べたり、普段の業務でも意見や提案を述べる機会がある。又、アンケートを行ったり、個人面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等を把握していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望に添いスキルアップのための研修を受けたり。向上心が持てる職場になっている。外部の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加するなど、他施設の方との交流できる機会があり話し合いをすることでサービスの質が向上できる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居後の会話の中で要望等を尋ねたり、少しでも不安がなくなるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にしっかり話し合いを行い要望や不安などを聞き取り家族との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時や事前情報から読みどのような支援が必要としているか見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からコミュニケーションを図り何に興味があり何ができるか、したいかを見聞きするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお手紙などで近況をお知らせし、協力を仰いだり、ご家族の要望や心配事に耳を傾けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会希望があれば行ったり、外出時などで近くを通った場合は声かけ等を行い、思い出してもらおうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ期間中はパーテーションがあり、入居者同士の関わりが少ない時もあったが今は入居者同士が話しやすいように職員が間に入りなど、孤独させないように関わりを持つように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、ご家族に相談など必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを図り、会話や行動から思いや要望を把握し、職員間で共有できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方や若い時の話などに生活環境を家族から聞き取りを行い把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量や水分量、排泄、何をして過ごされたか、どんな様子だったかなど、カルテに記録し共有している。新たな発見等あった場合は口頭でも申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で気づいた事や本人が困っていること家族からの要望などを取り入れながら、フロアーカンファで話し合い介護計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を行う事で変化や要望に気づくことができる。介護計画に合わせ、ケアの実践しているが、結果として本人に合わない時は職員間で話し合い見直しにいかすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを聞き、その都度できる支援方法を提供できるようにカンファレンスで話し合い対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験受け入れや、地域のおまつりや作品展など開催される際は参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月2回の往診。他科受診の希望や必要があればその都度対応している。かかりつけ医の変更も可能。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問がある。バイタルチェックや相談、報告することで、状態把握してもらい、必要に応じて医師への報告・受診を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、早期退院できるよう病院側と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期あり方は早い段階で本人や家族と話し合い、医師に相談。できるだけ希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて研修等で訓練を受けている。また対応マニュアルもあり、見える所に提示してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練、水害訓練を行い、非常時に対応できるように努めている。火災を起さないように環境整備も気を付けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの性格や認知症の症状が違うため、その人に合った言葉かけや対応ができるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を理解し、支援をしていけるよう心がけている。意思表示ができる方には問いかけ、ご自分で決めてもらうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手作業や入床時間、居室に戻るまで何をして過ごすかなど、問いかけ、働きかけている。出来るだけ希望が叶うように配慮し、その人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に出掛けたり、衣替えで足りない物があれば家族にお願いしたり、職員と一緒に買い物に行くなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好み等を尋ねメニューに入れたり、調理の下準備などお手伝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎食記録し接種量に変化がみられたら、体調変化に気がつけたり、捕食などで対応し1日の必要量が摂取できるようひとりひとりの状態、力に合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがい、食後の口腔ケアを習慣化している。義歯は毎食後洗い、夕食後は洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するように努め、気づいた事は報告しながら利用者にあった支援を行っている。できる限りトイレにて排泄をしてもらうようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で管理を行い、ティータイム時に、のむヨーグルトやオリゴ糖入りのミルクやコーヒーを提供している。歩行運動を促し、体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用し、視覚、嗅覚でも楽しんでいただくように工夫している。個々に合わせて着脱や洗身の支援をし、湯加減も調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力や状況に合わせて居室でゆっくり休んでいただけるように支援している。入居者のペースに合わせて午前中、午後共に臥床できる時間をつくるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用についても注意を払い、個人の服薬の把握や薬が変更になってからの症状や変化を記録し共有している。服薬の飲み込みが悪い時は協力医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家庭でされてきたであろう家事や畑仕事など本人が意欲があればお手伝いしてもらっている。塗り絵やゲーム、カード遊び等を用意し、その時の気分に合わせて楽しみが出来るように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ期間中は外出ができなかったが少しずつ花を見に行ったり、買い物を一緒に行ったり来たりと戸外に出掛けるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人ではお金を持たれることは、事務所にて預かっており、必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ対応している。要望があればかける事もできる。家族などから手紙が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアーや廊下などに季節を感じる掲示物を行うようにしている。台所で調理している様子が見えるように生活感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにソファを置いており、自由に使用できる。一人でゆっくり過ごしたり、他の入居者と一緒にお話をするなどできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好きなもの家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にはネームプレートがあり、またのれんに名前を入れ飾り、ご自分の居室がわかるようにしてある。フロアー内、居室内に手すりがあることで安全に移動することができる。		